NAKANIHON AUTOMOTIVE COLLEGE

学友会 会報

第17号

発行　中日本自動車短期大学学友会事務局
〒505 岐阜県加茂郡坂祝町深萱1301 TEL〈0574〉26-7121
FAX〈0574〉26-0840

会報発刊にあたって

中日本自動車短期大学
学友会会長　丹地章夫

本年も会報発刊の時期となりました。

会員の皆様には、益々御健勝で御活躍のことと、お慶び申し上げます。

平成十年度の事業計画も、順調に実施されており、ここに御報告申し上げます。

卒業生の皆様には、かつてない長引く不況の中で、生き残りをかけた様々な努力を続けられていることと存じます。

私がこれまでにも申し上げたように、このような厳しい時代だからこそ、お互いに切磋琢磨して行くこと、ほんの少しでもいい、新しい風を呼ぶ事が必要ではないでしょうか。

今ある支部は、今こそ尚一層支部の活性化に努め、お互いの情報交換、あるいは自分の中に眠っている力を呼び起こすきっかけ作りをして欲しいと思います。

現在まだ、支部の設立までに至っていない皆様は、是非共この機会に、新しい支部作りに向けて動きだそうではありませんか。

待っている時ではありません。行動です！きっと何かが生まれ育っていきます。

学友会は、やる気のある若い力を期待しています。遠慮なく御一報を！

さて、前号で申し上げましたように、十八才人口の減少に伴い、中日本自動車短大も、同様に志願者数減という厳しい状況に置かれています。よりきめ細かい指導により「中日本」ならーという印象を与えられる教育を目指して欲しいことは言うまでもなく、私たちもOBとして、尚一層学生募集に対して力添えをしていこうではありませんか。同窓子女入試制度、学友会推薦制度の活用も併せて、お願い致します。

母校ひいては学友会発展のため、どうぞ皆様のお力をお貸し下さい。よろしくお願い致します。

最後になりましたが、今回の会報発刊にあたり、多大なご協力、ご援助を賜りました、大学関係者並びにOB諸兄に対しまして、心より厚く御礼申し上げます。

ご挨拶

中日本自動車短期大学
学長　有馬　泉

学友会の皆様、お元気で御活躍のことと存じます。昨年の本学三十周年記念事業に際し、学友会の皆様方より多額のご寄付を頂きありがとうございました。お陰様で、新たに教育設備を購入でき、それらの充実に役立ちました。すなわち、視聴覚教室設備を全教室に完備しましたので、教育の効果がさらに向上することが期待されます。また、自動車整備実習教材としてディーゼルエンジン燃料供給教育装置や大型トラック等を購入しました。さらに、実習教育の効率化と成果の向上を目指して実習教育支援システムを設置しました。

次に、今年度の入学者数は、五五〇名で、昨年より五名増です。しかし、高校現役だけで見ますと、昨年より二・六％減少しました。これは、日本の十八才人口の減少が確実に進み、さらに受験生の四年制大学志望が増加したためと思います。

新入生の出身県は、北は北海道から南は沖縄まで三十八都道府県にわたっています。また、留学生は、韓国から二名、中国から十八名です。中国からの留学生は、本学と十年来相互交流を進めています、湖北汽車工業学院の日本語コースの修了生です。さらに、同窓子女入学者は六名、学友会推薦三名です。学友会関係者に厚く御礼申し上げますと共に、今後とも、ご協力のほどお願い申し上げます。昨年度より実施しましたクラスゼミナールにより、認定試験合格率がアップしました。これは、課外授業として毎週一回開講するもので、学生とクラス担任との会話ができ信頼関係が良くなりました。その結果、昨年度の卒業式では、教員の注意をよく守り学生の私語も少なく大変静粛な中で挙行されました。彼らが豊かな社会で育ち、核家族化した家庭環境等を考えますと、従来の単なる放任主義でなく、彼らの自主性を尊重しながら注意すべき点ははっきり言い、指導すべきであることを痛感しました。

昨年度の就職率は、約九十五％でした。これは本学創立以来一万七千名を超す学友会の皆様方のご活躍により、関係会社の本学に対する高い評価と深いご理解が得られているためと思っています。

最後になりましたが、学友会の皆様方の益々のご活躍とご発展を祈念いたします。

情報化・国際化に対応して

中日本自動車短期大学
事務局長代理　井戸　豊

学友会の皆様、このたび私は前事務局長の杉浦禎宣氏の後任として、事務局を担当することとなりました。

もとより微力でございますが、大学発展のため精進する所存でございますので、宜しくお引き回しのほどお願い申し上げます。

さて、昨年十月に皆様方のご支援・ご協力の下、大学創立三十周年記念式典を挙行することができました。

三十年の歴史を回顧し、先人の筆舌に尽くせぬご苦労、そして学友会の皆様をはじめ、関係各位の永年に亘るご尽力に思いを馳せる時、改めて深甚なる敬意と感謝の意を表する次第であります。

今大学では三十周年を節目とし、さらに「飛翔」すべく学長を先頭に諸施策を講じつつあります。

本紙面を拝借し、その一端をご紹介させていただきます。

その一つは大学内の情報化・電算化の促進であります。大学内では、事務系と教育系に分けられますが、例えば事務系では一昨年から昨年にかけ、総額二千七百万円に上る資本投下を行い、広報部、学生部の電算課に取り組み現在軌道に乗せつつあります。

また教育系においては創立三十周年記念事業の一環として、実習教育に対するCIAシステムを視野に入れながら、個人・集団に対する教育成果の情報をリアルタイムに担当者全員が入手できることを意図して設置し稼働中であります。

今一つは国際化の推進であります。現在、外国大学との交流窓口として、国際交流室が設置されております。ここ数年間では、オランダの自動車関係の短期大学と交換留学プログラムについて協議を進めているところであります。また、中国の教育機関とは十年以上に亘る交流の結果、今年の四月から十八名の留学生を受け入れており、現在も複数の教育機関から留学生の派遣について要請があります。今後その数は増加していくものと推測しておりますが、キャンパスの中で様々な国籍の学生同志が触れ合うことは、これから国際社会を生き抜いていく学生諸君にとって、国際感覚を養う絶好の機会であることと確信しております。

ご承知のとおり本学は、国内の同種教育機関の中で最大の規模であります。日本で最大の自動車専門教育機関であるということは、恐らく世界でも類をみない規模であると推察します。

大学が永遠に存続し名実ともに日本一、世界一の大学として発展していくため、今さまざまな施策が検討されておりますが、学友会の皆様におかれましても大学に対するご意見、ご提案をお寄せいただければ幸甚に存じます。

最後に、学友会の益々のご発展と、会員各位のご健勝を祈念申し上げます。

OB近況

第14期生
中村泰進さん

早いもので、中日本を卒業して十七年の歳月が経過してしまいました。現在、私は国際部品工業（大阪府豊中市）という、ガスケット・メーカーの営業マンとして、在学中に学んだ？知識を生かして日々仕事に励んでおります。

トヨタ系のディーラーに就職し、紆余曲折がありましたが、七年前より現在の会社にて、何とか頑張っております。

当初は、エンジンテスト要員として入社したのですが、機能評価、

設計と経験した後に、二年前より営業部へ移動しました。

技術に居る時は、自身が設計した部品を使用した車が町中を走り出すと「ホンマに大丈夫かいな」と思ったり、「我ながら自信作」と自己満足に浸ったりしていたのですが、営業部へ移動してからは、物作りの楽しみ、新しい試みをトライすることも無くなり、売上の減少に悩む毎日です。

しかし、自動車メーカーに対しても機能部品メーカーとして技術的な面での交流もあり、今の所この仕事を続けていこうと考えています。

学校の周辺環境も、学生の気質も、そして自動車も変化していきます。

たかが車、されど車、中日本の卒業生としてOBの皆様、そして恩師の先生方に負けないよう、この業界にしがみついていきますので宜しくお願い申し上げます。

在校生より

2年
柴田達寛さん

「お客様につくすこと」これがこれからの自動車業界に求められると考えています。景気の後退で新車・中古車の販売の減少、規制緩和による整備需要の減少など、自動車業界にはホットな話題が少なくなっています。

こんな時代だからこそ、逆に僕たちが活躍できるステージがあると考えてみました。車が売れないのはその会社の方針とセールスのやる気が悪いのであって時代のせいではありません。なにが悪いのか考えて改善することが必要です。

自動車業界もサービス業の最高峰だと考えています。ホテルやレストラン、スポーツクラブと同じ一流のサービスをお客様に提供できなければ、この先まっくらです。

僕がいう「サービス」とは、お客様に対してどれだけの誠意をもってつくせるかということです。お客様も人間です。気持ちよくサービスされたいから「つくす」店に行きます。だから景気や時代は関係ないのです。時代が変わったのだから過去の栄光は通用しません。結果ホットな話題が少ないでしょう?そうなのです。僕たちのステージをバブルがくれたのです。「つくすこと」まずここから。

エコノパワー in Kani 開催される

広報部長　岡田俊治

1997年11月30日、可児市の花フェスタ記念公園で、中日本自動車短期大学主催の省エネカー競技会「'97エコノパワー in Kani」が開催されました。

当日は、高校対象の「N―1クラス」に岐阜県内の高等学校から13チーム、一般対象の「N―2クラス」に中日本自短やOBから3チームの合計16台の省エネカーがエントリーしました。

競技は起伏の激しい公園内の散策路を使って、一周1.623kmのコースを4周し、1ℓ当たりの走行距離を割り出す方法で行われました。

一般入場者も多い公園内での競技会のため、競技中には、観戦者の子供が省エネカーにさわりたがったり、池のアヒルがコース内を散歩したりでてんやわんやの場面もありましたが、朝早くから日が暮れる間際まで、競技運営にあたった先生方や在学生ら20名を超える人々の協力のもと、和気あいあいのうちに無事競技会を終了することができました。

競技途中でコースアウトしたり、タイヤがはずれてリタイヤするチームなどありましたが、結果は、岐阜第一高校Bチームが377km／ℓで優勝し、有馬学長から賞状と記念品が授与されました。

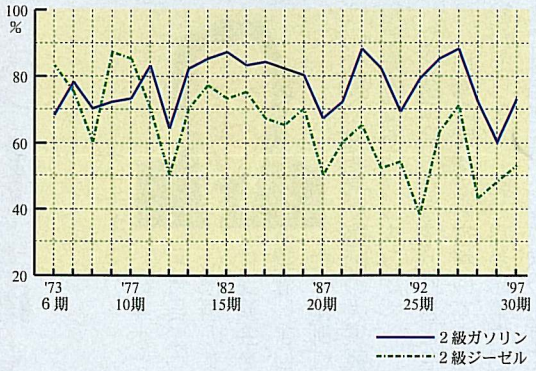
物造りに情熱を傾ける若者達の集う場として、諸方面からの中日本自動車短期大学に対する期待も大きく、今後もこの競技会を続け、より発展させていきたいと考えています。

認定試験の合格率

技術研修課

毎年行われる二級整備士認定試験の結果を報告します。今年は第三十期の学生が本学にて三月二十二日に受験しました。その結果合格率は、二級ジーゼルが五十一・五%で昨年の四十九・七%を若干上回りました。二級ガソリンは七十一・四%で昨年の六十・六%を上回りました。ほぼ例年並の出題傾向であることを考えると、とても満足できる結果でありません。より一層の合格率の向上を目指して努力していきたいと思っています。

OB諸兄の今後の活躍を期待します。



1997年度 事業計画

①**総会の開催**　開催場所、日程については役員会にて決定する

②**開学三十周年記念事業について**
- 開学記念事業を行う
- 三十周年記念名簿作成販売を行う

③**会報の発行**　三十周年記念会報を発行する

④**支部設立に向けて**　積極的な取組を展開する。また既存の支部の活性化を図る

⑤**キャンパスグッズの一層の充実を図る**
- 試作品を作る
- 三十周年記念グッズを作成する

⑥**大学との懇談会を行う。**

⑦**準会員との交流会をもつ**　予定10月中頃

⑧**講演会の開催**　研究家・専門家等の講演を行う

⑨**退職者に記念品贈呈する**

⑩**卒業生に記念品を贈る**
- 学友会規約を配布する
- 三千円程度のものを贈る

⑪**積立金（学友会館設立積立・奨学金積立）について**　継続する

⑫**奨学金支給をする**

⑬**OBへの福利厚生**
- 長島温泉割引き（適切なものがあれば随時考える）

⑭**学生募集への協力**　同窓生子女推薦等

1996年度　収支計算書

1996年8月1日～1997年7月31日（単位：円）

科　目	予算額（イ）	決算額（ロ）	予算超過額（イ）－（ロ）	執行率 %
Ⅰ．収入の部				
基金運用収入	550,000	208,055	▲341,945	37.8
会費収入	14,000,000	13,090,000	▲910,000	93.5
事業収入	0	0	0	0.0
雑収入	175,000	67,860	▲107,140	38.8
受取利息	75,000	66,520	▲8,480	88.7
雑収入	100,000	1,340	▲98,660	1.3
当期収入合計（A）	14,725,000	13,365,915	▲1,359,085	90.8
前期繰越収支差額	38,112,522	38,112,522	0	100.0
収入合計（B）	52,837,522	51,478,437	▲1,359,085	97.4
Ⅱ．支出の部				
事業費	8,435,436	7,485,224	▲950,212	88.7
会報制作費	1,500,000	1,753,436	253,436	116.9
＊予備費充当	253,436		▲253,436	0.0
特別企画費	2,200,000	2,055,850	▲144,150	93.4
記念品費	2,400,000	2,311,320	▲88,680	96.3
支部活動費	600,000	240,000	▲360,000	40.0
広告費	100,000	0	▲100,000	0.0
補助金	150,000	50,000	▲100,000	33.3
福利費	1,000,000	482,000	▲518,000	48.2
＊他科目流用	▲518,000		518,000	0.0
奨学金	600,000	500,000	▲100,000	83.3
＊他科目流用	▲100,000		100,000	0.0
事業雑費	250,000	92,618	▲157,382	37.0
30周年特別事業費	6,000,000	5,000,000	▲1,000,000	83.3
30周年寄付金	5,000,000	5,000,000	0	100.0
30周年記念事業関連経費	1,000,000	0	▲1,000,000	0.0
会議費	2,653,277	2,157,310	▲405,967	84.2
総会費	700,000	394,033	▲305,967	56.3
役員会費	100,000	319,987	219,987	320.0
＊予備費充当	219,987		▲219,987	0.0
役員会旅費	800,000	1,443,290	643,290	180.4
＊予備費充当	618,000		▲618,000	0.0
＊他科目流用	25,290		▲25,290	0.0
役員懇親会費	100,000	0	▲100,000	0.0
事務費	2,707,400	2,098,492	▲608,908	77.5
人件費	500,000	410,000	▲90,000	82.0
通信印刷費	1,700,000	1,321,899	▲378,101	77.8
事務用品費	50,000	55,240	5,240	110.5
＊他科目流用	5,240		▲5,240	0.0
事務雑費	30,000	97,953	67,953	326.5
＊他科目流用	67,953		▲67,953	0.0
事務機器維持費	50,000	0	▲50,000	0.0
事務機器リース費	302,400	213,400	▲89,000	70.6
ファックス回線取得費	75,000	0	▲75,000	0.0
＊他科目流用	▲73,193		73,193	0.0
雑支出	150,000	60,000	▲90,000	40.0
慶弔費	50,000	10,000	▲40,000	20.0
退職者慰労金	100,000	50,000	▲50,000	50.0
基金財産設定支出	6,000,000	0	▲6,000,000	0.0
学友会館建設基金	4,000,000	0	▲4,000,000	0.0
奨学金積立基金	2,000,000	0	▲2,000,000	0.0
予備費	500,000		▲500,000	0.0
	▲498,713	▲500,000	▲1,287	99.7
当期支出合計（C）	25,857,400	16,801,026	▲9,056,374	65.0
当期収支差額（A）－（C）	▲11,132,400	▲3,435,111	7,697,289	
次期繰越収支差額（B）－（C）	26,980,122	34,677,411	7,697,289	

貸借対照表

1997年7月31日現在（単位：円）

科　目	1995年度（A）	1996年度（B）	増減（B）－（A）	前年度比 %
資産の部				
流動資産	34,567,360	30,894,194	▲3,673,166	89.4
現金	21,946	305	▲21,641	1.4
普通預金	15,759,646	12,055,444	▲3,704,202	76.5
定期預金	18,785,768	18,838,445	52,677	100.3
固定資産	43,732,099	43,940,154	208,055	100.5
特定目的資産	42,254,388	42,462,443	208,055	100.5
学友会館建設定期預金	27,427,335	27,584,043	156,708	100.6
奨学金積立定期預金	14,827,053	14,878,400	51,347	100.3
有形固定資産	1,477,711	1,477,711	0	100.0
器具備品	1,477,711	1,477,711	0	100.0
資産の部合計	78,299,459	74,834,348	▲3,465,111	95.6
負債及び正味財産の部				
負債	30,000	0	▲30,000	0.0
流動負債	30,000	0	▲30,000	0.0
未払金	30,000	0	▲30,000	0.0
正味財産	78,269,459	74,834,348	▲3,435,111	95.6
（うち特定目的資産）	42,254,388	42,462,443	208,055	100.5
（うち正味財産増加額）	3,468,765	▲3,435,111	▲6,903,876	▲99.0
負債及び正味財産の部合計	78,299,459	74,834,348	▲3,465,111	

監査報告書

1996年度の学友会会計に関し、貸借対照表及び収支計算書を平成10年6月15日総勘定元帳及び各種帳票類と照合し監査した結果、適法且つ適切でありました。

監査役　吉田豊彦

監査役　榊原和明

文化講演会開催

事業担当　大脇澄男

昨年十一月一日（土）に恒例の文化講演会を開催しました。講師には元教授、現非常勤講師の大須賀和美先生にお願いしました。

文化講演会も今回で八回目となり、地域の皆様にも定着してきた観があります。第一回から第六回までは自然をテーマに取り上げてきましたが、前回から文化・産業を取り上げることになり、今回は自動車をテーマに選びました。また初めて学内から講師をお願いすることになり、大須賀先生に白羽の矢が立ちました。演題は「自動車のはじまり―岐阜県―」ということで、本学の所在地である岐阜県での自動車のはじまりを、さまざまなエピソードを織りまぜてお話しいただきました。終了後の感想でも「自動車のことがよく分かった」、「とても詳しい話に感心しました」等、先生の自動車に関するご造詣の深さをうかがえる興味深いものでした。

（追記） 大須賀先生は今年の一月から体調を崩されて病床にあります。先生の一日も早いご回復をお祈り致します。

編集後記

会員の皆様お元気ですか。

この度第十七号会報を発刊することができました。

発行にあたり、大学教職員及び会員の皆様にいろいろと原稿をいただき、ありがとうございました。

今後、発行するにあたり会員である皆様の近況等又はご意見なりを本学学友会事務局までご連絡下さい。

最後に会員の皆様方に心より厚く御礼を申し上げるとともに、ご活躍を祈念して編集後記とします。

編集スタッフ　久世康弘　森光司　佐藤幹夫